

## 平成22年度 坂城高等学校 学校自己評価まとめ

学校運営方針： 地域と社会に貢献する人材の育成

豊かな知性と情操を身につけ、地域・社会の有為な構成者となる健全な人格の育成を期する。

NO	重点目標	項目	評価項目	20年	21年	相対	絶対	自己評価	評点
1	学ぶ楽しさを実感し、進路の希望を実現できる学校づくり	1-1	わかる授業の実践による基礎学力の定着	2.9	3.1	↗107	104	授業アンケートを実施し、授業改善に努めているが、教員相互の研修という点や授業の支援という点では改善できる部分がある。	3.2
		1-2	将来を見据えた教育課程の構築	2.5	2.8	↗111	93	2年の選択講座に地域と連携して行う「ものづくり」講座、1年に基礎的学力育成のための学校設定教科の導入を検討し、進めている。	
		1-3	特徴ある総合学習の構築	3.4	3.3	↘95	109	ひきつづき、3Cを軸とした生きる力をはぐむ総合学習の実現につとめている。	
		1-4	進路指導の充実	3.1	3.5	↗115	118	就職状況が厳しい中、就職活動支援事業を活用し粘り強く指導した結果、生徒の就職内定率90%を超えることができた。	
2	落ち着いた生活でできる校風づくり	2-1	基本的な生活習慣の確立	2.7	2.7	→99	89	制服のきちんとした着用の指導を係を中心にすすめた。今後は制服のあり方の検討と並行して指導を考えていきたい。	2.8
		2-2	安心して学べる環境と集団作り	2.9	2.5	↘87	84	高校生活に慣れない1年生では教室が落ち着かない面も見られ、支援が必要な場面もみられたが次第に落ち着きつつある。安心して学ぶことのできる学習環境を整える工夫をしたい。	
		2-3	交通ルール・マナーの向上	2.5	2.6	→105	88	登下校のマナーについてHRでの呼びかけ、立ち番指導を行っているが、十分浸透していない面もあり、引き続き指導を行っていく。	
		2-4	個々の生徒に応じた指導態勢作り	3.2	3.3	→102	111	相談室を中心に支援の体制は充実したが、支援の必要な生徒が増えていることもあり、職員個々の研修を深め全体で対応できるように図りたい。	
3	生徒1人1人が自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり	3-1	HR・行事を通じた人間形成、集団作り	3.3	3.4	→102	114	HRを単位として文化祭をはじめ各種行事へ取り組みを充実させた。HR担任への負担が大きいため支援体制の充実が必要である。	3.1
		3-2	生徒会活動を通じた人間形成、集団作り	3.5	3.6	→102	119	学校創立100周年葛尾祭50周年の記念の年に当たり、文化祭をはじめ各行事とも充実した活動を行うことができた。	
		3-3	クラブ活動を通じた人間形成、集団作り	2.1	2.2	→103	74	クラブ活動への意識調査を行った。1年生の加入率は3割台にとどまっておらず、来年度の新入生に向け対策を講じる必要がある。ハンドボール部が男女とも北信越大会に進んだのは明るいニュースである。	
4	保護者・地域に信頼される学校づくり	4-1	PTA活動・同窓会の充実	2.4	3.0	↑124	100	100周年事業は丁寧に準備を重ね、成功裏に終えることができた。PTA活動への会員の参加については工夫を重ねる必要がある。	3.2
		4-2	地域や教育機関との連携強化	3.2	3.3	→103	111	地域との連携による学校設定教科の導入を進めている。埼玉工業大学との連携による生徒や教職員への講座の開講を行った。	
		4-3	授業公開の充実	2.8	2.8	→103	95	年2回の公開授業を行っているが参加は低調である。	
		4-4	広報活動の充実	3.2	3.5	↗109	116	全職員による中学訪問を継続しており、体験入学への参加も増加している。「坂高プレス」によって学校の教育活動の一端を公開しているがP会員も含め周知は不十分であり、更に広める必要がある。	

数値は <4:十分満足 3やや満足 2やや不足 1不十分> の4段階で個人が自己評価したものの平均値

「相対」は、昨年度を100としたときの本年度の値、「絶対」は3.0を基準(100)としたときの値

# 職員による自己評価

● 2009年度  
■ 2010年度

